

抗がん剤治療を
受けられる方へ

【カドサイラ療法】



さいたま赤十字病院

どんなお薬を使うの？

今回の治療は、『カドサイラ』という抗がん剤を点滴して行います。

カドサイラ

カドサイラはハーセプチンに抗がん剤を結合させた薬です。従来のようにハーセプチンと抗がん剤を別々に投与する方法では、ハーセプチンはHER2 タンパクを標的としてがん細胞だけを攻撃しますが、抗がん剤は正常細胞にもダメージを与えていました。

一方、カドサイラはハーセプチンががん細胞のHER2 タンパクを攻撃するときに抗がん剤を導いて一緒にがん細胞を攻撃します。ターゲットをがん細胞に絞って作用するため、従来の併用療法よりも副作用が軽度だとされています。

治療を始める前に

下記の項目に該当する方は
あらかじめお知らせください

- 市販されているものも含め、現在お薬を服用されている方
- ほかの医師または歯科医師による治療を受けている方、またはこれから受けようとしている方
- 以前にお薬の内服や注射などの治療を受けて、発疹やかゆみ等のアレルギー症状が現れたことがある方
- 妊娠している、或いは妊娠している可能性がある方

治療の前にぜひ済ませておいて
いただきたいこと

- 現在、虫歯や歯槽膿漏、口内炎などの口腔内に問題はありませんか。抗がん剤治療を開始すると、副作用が出現する頃に、虫歯や歯槽膿漏が感染源となったり、口内炎がひどくなって、治療が困難な場合があります。口腔内の問題については、主治医と相談してください。

投与スケジュール

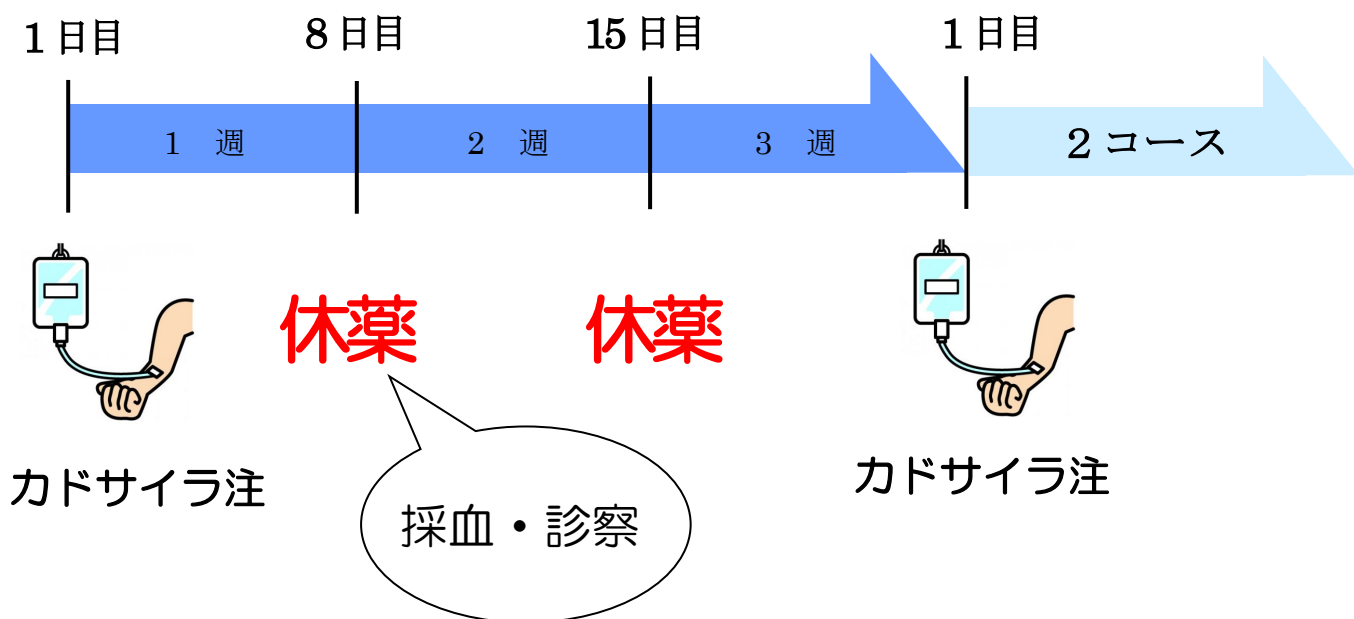
カドサイラ療法

標準的な投与スケジュール

第1日目に

カドサイラ®を静脈内に点滴で投与します。

この治療を3週間に1回の間隔で繰り返し治療を続けて行きます。



点滴当日のスケジュール

点滴開始

お薬の作用

デカドロン
生食液
15分

デカドロン：アレルギー予防
生理食塩液：希釈用輸液

グラニセトロン
生食液
30分

グラニセトロン：吐き気止め
生理食塩液：希釈用輸液

カドサイラ
生食液
90分
[30分]

カドサイラ：抗がん剤
生理食塩液：希釈用輸液

生食液
5分

生理食塩液：輸液
※点滴ラインに残っている薬液を
洗い流します。

約2時間20分



点滴を受ける際の注意

このお薬は点滴注射の際、わずかな漏れでも皮膚に障害をおこすことがあります。点滴注射中は下記の点にご注意ください。

- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴注射中は安静にしてください。
- 点滴注射中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりする時は、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。
- 点滴注射中に息苦しくなったり、胸が苦しくなったり、吐き気がするなど、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。



予想される主な副作用と対策

インフュージョン・リアクション



『カドサイラ』で起こる症状で、点滴中または点滴開始後24時間以内に多く起こる症状の総称で、発熱や悪寒、頭痛などがみられる事がありますが、翌日には改善する事が多いです。

ゆっくり点滴することで発症の予防や症状の軽減をさせることができます。

なお、2回目以降は、発症しにくくなります。

点滴の翌日以降も高熱が続く場合には、主治医へ連絡してください。

下記のような症状が出たり、少しでもおかしいと感じたりした時は、**すぐに近くにいる医師または看護師、薬剤師にお知らせください。**

点滴中、点滴後に

- 顔や体がほてる
- 顔が赤くなる
- 息苦しい
- 心臓がドキドキする
- 体にかゆみを感じる
- のどがかゆい
- 気分が悪い

心臓への影響



『カドサイラ』を継続することにより、まれに出現する症状で心臓の機能を低下させることがあります。機能が低下すると全身に十分な血液が送れなくなり、肺や肝臓などで血液が貯まることもあります。このため、疲れやすくなったり、だるいという症状がでたり、息苦しくなったりします。その他、さまざまな異常が現れてきます。なお、定期的に心電図や心エコー検査を行って観察していきます。

ご相談ください



- 同じ動作をしているのに、息切れがするようになった
 - 心臓がドキドキする
 - あおむけでは息が苦しい
(上半身を起こした姿勢にすると楽になる)
 - 脈が速くなる
- 上記の症状がある場合には、早々に主治医へご相談ください。

アレルギー反応



ヒトの身体にとって、薬物は「異物」です。抗がん剤に対して、身体の防御システムが過剰に、あるいは不適當に反応したことで起こる症状の総称が、アレルギー反応(過敏症)です。アレルギー反応は、抗がん剤の点滴時やその直後に起こり、その多くは軽い症状ですが、まれに、急に血圧が下がるといった症状が起こることがあります。

アレルギー症状の多くの場合、点滴を初めてから10分以内に起こります。

下記のような症状が出たり、少しでもおかしいと感じたりした時は、**すぐに近くにいる医師または看護師、薬剤師にお知らせください。**

点滴中に

- 息苦しい。
- 胸が苦しい、痛い。
- 発疹が出る。
- 汗が出る。
- 心臓がドキドキする。
- 顔がほてる。
- からだがかゆい。

吐き気・嘔吐・食欲不振



吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状は、薬剤が消化管粘膜や嘔吐中枢を刺激することで起こります。

多くの患者さんは軽度で、投与開始直後から見られる事があります。重症化することはありません。

しかし、症状がひどい場合は吐き気を抑える薬がありますので、医師に相談してみましょう。

なお、症状や程度には個人差があり、軽い吐き気を感じるだけの人もありますし、数日間から数週間ほど続く場合もあります。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

- 嘔吐が1日に何回も起こる。
- 嘔吐のため水分や食事がとれない。
- 吐き気が長期にわたって続いている。
- 吐き気のため、吐き気止めを飲むことができない。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫(日常編)



- 我慢せずに吐き気止めを積極的に服用しましょう。
- 食後は横にならない。
- 映画や音楽などでリラックスを試みましょう。
- 吐き気が生じたら、ゆっくり呼吸しましょう。
- 体をしめつけるような衣類は避けましょう。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫(食事編)



- 吐き気で食欲のないときは、食べられる物を少しずつ食べましょう。
- 香りの強いものや、脂っこいものは避けましょう。
- 脱水を起こさないよう、水分をとりましょう。ただし食事の時の過剰な水分摂取は、嘔吐を誘発しやすくなるので控えましょう。
- 食事はゆっくりと時間をかけて、良く噛んで食べましょう。
- 冷たいジュースを飲んだり、氷などを口に含んで見ましょう。
- 熱い食べ物の匂いは、吐き気を強めるので避け、冷やして緩和させてみましょう。

骨髄抑制

血液の中には白血球、赤血球、血小板という3つの成分がありますが、抗がん剤の影響を受けて機能が低下することがあります。

血小板の減少



骨髄抑制により、血液を固まらせる役割を担う血小板を一時的に減少させ、鼻血、内出血、歯ぐきからの出血などの症状が起こりやすい状況になります。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

血小板減少の徴候

- 鼻血が出やすい。
- 歯ぐきから出血しやすい。
- 青あざができやすい。
- 血が止まりにくい。
- 血尿。

出血しやすくなったら



- ・ 歯ブラシは、柔らかいものを使いましょう。
- ・ 鼻をかむ時は、強くかまないようにしましょう。
- ・ 刃物などを使う時は、けがに注意しましょう。

白血球の減少



骨髄抑制により、細菌から体を守る役割を担う白血球(特に好中球という成分)が一時的に著しく減少し、体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症が起こりやすい状況になります。治療を開始すると徐々に少なくなり、休薬すると1週間程度で回復します。白血球数の少ない時期は感染しやすい時期ですので特に感染には注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

感染症の徴候

- 38℃以上の熱が持続する。
- 寒気がする。
- せきが出る。
- のどの痛みがある。
- 排尿時の痛み。
- 頻尿。
- 軟便、下痢が続く。

感染症を予防するための対策



- 外出時はマスクを着用し、できるだけ人混みは避けてください。また、風邪などの感染症にかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 外出から戻ったときや、トイレ、食事の前後は手をよく洗い、こまめにうがいをしましょう。
- 歯を磨くときは、口の中を傷つけないように、柔らかく清潔な歯ブラシを使ってやさしく磨きましょう。
- 短時間の手早いシャワーを浴びるなどして、身体を清潔に保つようにしてください。
- 排便後の肛門周囲を清潔にして傷などをつけないようにいねいに扱ってください。
- 皮膚に小さな傷がついた場合は放置せずに、消毒剤をつけるなどして、十分手当てをしておきましょう。
- 刃物を使う時、アイロンがけや、料理の時の火傷などに気をつけましょう。
- 主治医に相談せずに予防接種を受けないようにしましょう。

赤血球の減少



骨髄抑制により、全身に栄養(酸素)を運ぶ役割を担う赤血球を一時的に減少させ、全身の酸素量が低下してめまいや息切れなどの貧血症状が起こりやすい状況になります。点滴を続けて行くと、徐々に起きることがあります。休薬や治療が終了すればもとの値に戻ります。治療を続けて数週～数ヶ月に注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

貧血の徴候

- 息切れ。
- 疲れやすい。
- さむけ。
- めまい。
- 頭が重い。

極度の貧血の場合、輸血をすることがあります。

貧血になったら



- ・ 十分な休養と睡眠をとり、無理をしないようにしましょう。
- ・ 動き始めるときはゆっくりと(起き上がり、立ち上がり)
- ・ 急激な運動(走る、階段を駆け上がるなど)は避けましょう。

口内炎



口内炎は治療を開始して5～14日目頃より、口の中がヒリヒリする症状が出てくることがあります。

口内炎ができると舌や口の粘膜があれたり潰瘍ができて、食べ物がしみたり、口の中が腫れたりします。

口内炎は確実な治療法がないので、予防がもっとも大切です。口内炎のほとんどは治療終了後に回復します。

口内炎がひどくなると、食事がとれず体力が低下する場合があります。口内炎ができたなら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

口内炎の予防と対策



- 食後は歯ぐきを傷つけないように柔らかい歯ブラシで、きちんと歯を磨きましょう。
- 外出から帰宅した時、毎食後、ねる前に水または医師から処方されたうがい薬でまめにうがいをしましょう。
- 熱い食事は口や喉に刺激となるので、冷たい物や室温程度に冷めたものを食べるようにしましょう。
- 酸味の強いもの、スパイスをきかせたもの、塩辛いものは、なるべく食べないようにしましょう。

手足のしびれ



手先や足先がしびれたり、感覚が鈍くなったりすることがあります。軽い症状であれば、ほとんど自然に治りますが、もとに戻りにくい場合もありますので、気になるときは我慢せずにご相談ください。

脱毛



脱毛は軽度と考えられますが、個人差もありますのでご注意ください。

場合によっては、治療を開始して2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が根元で切れるようになり、抜け毛が気になることもあります。

下痢



下痢は治療を開始後すぐに起こるものと、数日から2週間頃に起こる場合があります。

これはお薬が腸管運動を活発にしたり、腸管の粘膜を障害するために起こります。

1日に何回も下痢をしたり、水分も摂れない場合は、我慢せずに、**医師または看護師に連絡をしましょう。**

下痢が続く時の対処



- 乳製品、香辛料を使ったもの、脂っこいもの、食物繊維の多いもの、匂いの強いものは避け、なるべく消化のよいものを取りましょう。
- 脱水症状になるのを防ぐため、スポーツドリンクなどで十分に水分を取りましょう。

便秘



便秘は、お薬による場合もありますが、食事の影響や運動不足が原因の場合もあります。

便秘が続く時の対処



- 水分を十分とり、食物繊維の多いものを取りましょう。
- 軽い運動をする様に心がけましょう。

肝臓への影響



治療を開始して1週間位経つと、肝臓自体の炎症や損傷により肝機能値が上昇することがあります。よって、定期的な検査を行いながら治療を続けていきます。

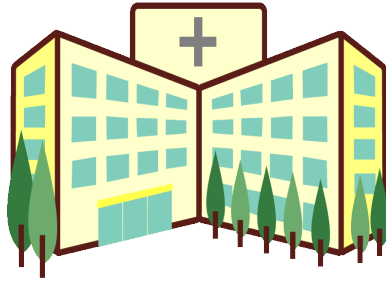
間質性肺炎



頻度はまれですが、肺に炎症が起こり肺の機能が低下することがあります。咳が止まらない、息切れや呼吸が苦しい、熱が続く場合には、すぐにお知らせください。

以上が代表的な副作用ですが、これ以外にも予期せぬ副作用があらわれることがあります。

気になる症状やいつもと違う症状がある場合は、どんな些細なことでも我慢せずに医師または看護師、薬剤師にご相談ください。



連絡先(平日 8:30~17:00)

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5

TEL : 048-852-1111(代表)

乳腺外科外来(医師)

外来点滴室(看護師)

薬剤部(薬剤師)

連絡先(平日 17:00~8:30)

(休日 24 時間対応)

TEL : 048-852-1111(代表)

休日夜間受付(救急外来)